

各 位

会 社 名 ダブル・スコープ株式会社
代表者名 代表取締役社長 崔 元 根
(コード番号 6619 東証プライム)
問合せ先 取締役 大 内 秀 雄
(<https://w-scope.co.jp/ir/contact.html>)

2026 年 1 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2025 年 3 月 13 日に公表しました 2026 年 1 月期の第 2 四半期（中間期）連結業績予想と本日公表の実績値との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想と実績値との差異

(1) 2026 年 1 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想と実績値の差異（2025 年 2 月 1 日～2025 年 7 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,000	百万円 △1,600	百万円 △4,000	百万円 △4,000	円 銭 △72.83
実績値(B)	1,450	△2,868	△5,412	△5,429	△98.86
増減額(B-A)	△2,549	△1,268	△1,412	△1,429	
増減率(%)	△63.7	—	—	—	
(ご参考)前期中間期実績 (2025 年 1 月期中間期)	29,062	1,070	1,751	1,280	23.32

2. 差異の理由

2026 年 1 月期第 2 四半期（中間期）（以下、上期）の連結業績につきましては、欧州市場における EV 向け補助金復活の遅れ等に伴う EV 需要の停滞による販売数量減少の継続によりセパレータ事業の売上高は計画比 260 百万円減少の 847 百万となりました。イオン交換膜事業においては、昨年出荷が完了した Posco Argentina S.A.U. への BPED Substack（イオン交換膜スタックモジュール）の交換需要に対する製品供給契約が締結され、上半期を予定していた製造・出荷を当下半期から開始する予定です。新規案件としては、鉱石から水酸化リチウムを精製するプラント向けの双極電気透析（BPED）モジュールの供給を開始した段階であり、売上高は 2,289 百万円減少の 603 百万円となりました。以上から、売上高は計画比 2,549 百万円減少の 1,450 百万円となりました。

営業利益につきましては、コスト削減による経営合理化を強く推し進めておりますが、引き続きセパレータ事業における販売量低調による生産数量の減少に伴う機械稼働率の低下やイオン交換膜事業における下期以降への製造・出荷ずれ込み等により固定費を賄えず、計画比 1,268 百万円減少の△2,868 百万円となりました。

経常利益につきましては、取引先の余剰在庫などに対する受取補償金 148 百万円を計上した一方、持分法による投資損失が 119 百万円増加し、米ドル建て債券債務等の為替差損 199 百万円の計上などにより計画比 1,412 百万円減少の△5,412 百万円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、1,429 百万円減少の△5,429 百万円となりました。

なお、2026 年 1 月期通期の連結業績予想につきましては、従来の予想を据え置きとしております。これは、セパレータ事業においては、昨年から販売のターゲット用途を EV からデータセンター向け ESS に切り替えを進めており、当下半期から販売が開始できる見込みとなっているほか、イオン交換膜事業においては、昨年出荷が完了した Posco Argentina S.A.U. への BPED Substack（イオン交換膜スタックモジュール）の交換需要に対する 2027 年までの製品供給契約が締結されました。また、新規取引として、POSCO Pilbara Lithium Solution が韓国内で鉱石から水酸化リチウムを精製するプラント向けに双極電気透析（BPED）モジュールの供給を受注し、Posco Argentina S.A.U. とはこの製品供給契約を含む今後の取引を円滑に行うため、2030 年 8 月まで相互協力関係を強化し、その他の案件についても協力していくこととしました。その他の新規案件についても取引開始の準備を進めており、今期から順次開始できるものと見込んでいることなどによります。

【業績予想に関する留意事項】

業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上